

1. 調査目的等

中学校全学年の生徒の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善及び進路指導に役立てる。

2. 学校ごとの指標

すべての教科で標準偏差値を上回る。

3. 指標にむけての取組

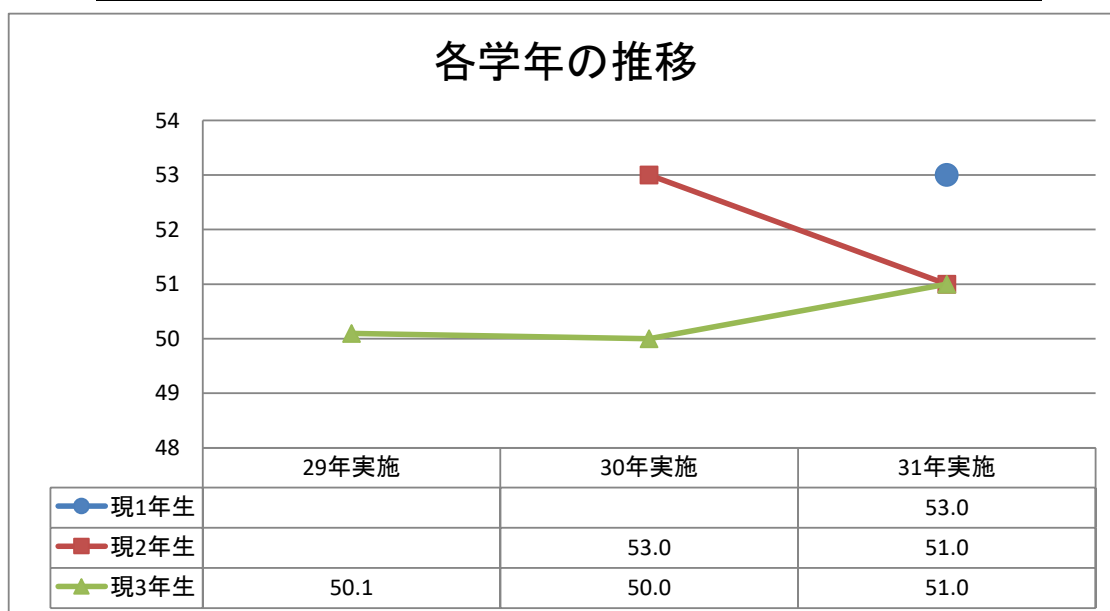
- 基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る活動の実施
- ・学力調査の分析結果を基にした苦手分野の繰り返し学習の取組
- ・授業と連動した家庭学習の実施・点検・評価の徹底(自学の充実)
- ・授業アンケート(生徒による授業評価)の実施と結果を受けた教師の授業改善策の生徒への提示

4. 調査結果

※学校平均5年間の推移 (標準偏差値50に対して)

年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
本校(A)	52.6	52.0	51.2	51.3	51.6
嘉麻市(B)	47.0	47.3	47.9	49.3	48.8
(A)－(B)	5.6	4.7	3.3	2	2.8
標準偏差値との差 (A)－(50)	2.6	2	1.2	1.3	1.6

各学年の推移



5. 各学校における分析

- ・総得点では、3学年とも標準偏差値50を上回ることができている。基礎・基本の定着のために授業で繰り返し復習を行ったこと、毎日継続して自学ノートを行うことによる家庭学習の定着、また校内研修ですすめている授業改善の効果があらわれていると思われる。
- ・目標としていたすべての教科で標準偏差値50を上回ることについては、2年生で1教科、3年生で2教科について僅かだが下回っている。
- ・1年生は県平均より3p高い数値で昨年度から入学してきている。
- ・3年生は、1、2年生の時から1pの上昇が見られた、各教科で継続して基礎・基本の定着のために取り組んでいることが下支えの一因になっていると思われる。
- ・2年生は、入学時より2pの下降と課題が見られた。学習へ向かう姿勢や基礎・基本の定着に向けた日々の取組について見直しが必要と考える。

6. 各学校における今後の取組

- ・知識技能中心の問題出題から、思考力・判断力・表現力を問う問題へと出題傾向が変わってきていることを意識し、各種テストの分析を学力向上委員会、教科部会等でおこない、生徒の課題を共有しながら授業改善をすすめていく。
- ・研究主題である「自分の考えを持ち、主体的に表現できる生徒の育成」をめざし、各教科・道徳等での「導入」や「かく活動」の工夫のある授業づくりについて、研修を計画的にすすめていく。(校内研修の日常化)
- ・自学ノートを中心とした家庭学習の取組を見直し、質と量の向上に努める。家庭とも連携をすすめながら、1・2年生は90分、3年生は120分を目標とした学習時間を取り組めるようにする。。
- ・単元毎の確認テストや、重要語句等の定着をめざした小テストの実施など、機会をとらえて生徒の基礎・基本の定着具合の把握に努める。

7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

◎今後の取組を具体化し推進することができるように、特に、次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。

◆嘉麻市学力向上推進委員会に基づく学力向上検証改善委員会を開催し、「思考力・表現力等を問う定期考査」の実施、それに伴う授業改善を推進する。また、各学校が作成した「思考力・表現力等を問う定期考査」問題を交流する場を設定することで、質の向上を図る。

◆嘉麻市学力向上推進プランに設定した「書く(かく)活動」を核とした授業づくりを推進する。そのために、校内研修での授業観察指導を実施する。また、学力向上推進員による若年層の教員を対象とした授業改善指導や教育論文指導を実施する。

◆嘉麻市学力向上プランに設定した「家庭学習」を推進する。そのために、個に応じた学習課題の提示を進めるとともに、自学の習慣化に向けた具体的な取組の具体を提示する。